

1. へき地校体験実習の目的

(1) へき地校体験実習Ⅰ（2年次）

へき地校体験実習Ⅰは、へき地の学校と子ども、および地域の実際についての理解を深め、教育課程、指導方法などの特色を実地に学ぶことによって、へき地教育の向上発展に対する意欲を高めることをめざす。

受講学年は2年次とし、授業観察・TTを中心とする実習を行う。

(2) へき地校体験実習Ⅱ・Ⅲ（3・4年次）

へき地校体験実習Ⅱ・Ⅲは、主免許の教育実習（小学校または中学校）の経験をふまえて、複式学級・少人数学級における指導方法についての実践的理解を深め、へき地・小規模校教育の向上発展に対する意欲を高めることをめざす。

受講学年は3・4年次とし、授業観察と教壇実習を行う。

2. へき地校体験実習生心得

- (1) 実習生は、実習校の教職員に準じて、学校の規定に従い、真剣にしかも積極的な態度で実習にあたること。
- (2) 実習生は、実習校の出勤時刻の10～15分前までに登校し、直ちに実習生出勤簿に捺印すること。
- (3) 実習生は態度、言動、服装に注意し、実習校はもちろん校区においても礼儀正しくすること。
- (4) 実習生は、実習校内で見聞したことを校外で他言しないこと。
- (5) 実習生は、実習生代表を中心として切磋琢磨し、協力し合って各自の研究と実習に努めること。
- (6) 実習生は、実地指導について参観を受けたときは、必ずすすんで批評を請い、助言、指導を受けること。
- (7) 実習生は、愛情を持って児童・生徒に接し、よく観察してその指導にあたること。
- (8) 実習生は、校内外における児童・生徒の安全教育について十分配慮すること。
- (9) 実習生は、指導教諭の指導のもとに、学級の事務作業に従事したり、教室環境の整備などにも心を配ること。
- (10) 実習生は、日々の実習について計画し、その反省を「実習日誌」などに丹念に記録すること。
- (11) 実習生は、茶代、用紙代、その他の諸経費のために、共同の会計を設けて運営すると便利である。
- (12) へき地校体験実習終了後、児童・生徒と接触する場合は、必ず指導教諭と連絡をとること。

※ 別に実習校で示される、実習生としての留意点についても十分理解し、守ること。